

## 平成20年度研究推進計画

### < 研究主題 >

主体的に学び、高め合う子どもの育成

- 考える力・表現する力・関わる力を育てる(算数科) -

### 研究主題設定の理由

#### 1 これまでの研修

3年間、算数科の研修を進めてきて、次のようなことが明らかになってきた。

平成17年度「主体的に学び、高め合う子どもの育成

子どもが自分の考えを持ち、生き生きと表現する算数科授業」

ドリルやプリントにはまじめに取り組むが、なぜそうなるのかを考えることが苦手で、わからないとすぐにあきらめたり、答えややり方を手っ取り早く教えてと言ったりする子どもがいた。そこで、多様な考えや表現ができる課題や課題提示を考え授業を行った。子どもたちは考え方や表現は1つではないことがわかり、自分でもいくつか考えようとする子どもも出てきた。話し合いの場面では、自分の考えをわかりやすく伝えられなかったり、自分の考えは言うものの、それで満足し、友だちの考えを聞いたり、多様な考えをつなげたりすることができなかった。授業者も考えを関わらせたりつなげたりしながらまとめていくことに戸惑い、適切な発問や言葉がけができず、それらの考えを出させるだけに終わってしまうことがあった。

平成18年度「主体的に学び、高め合う子どもの育成

子どもが考えを深めたり広げたりするための授業者の関わり方(算数科)」

課題に対して様々な考え方をしたり、自分の考えを发表しようとしたり、友だちの考えを聞こうとしたりする子どもが増えてきた。また、友だちの考えと自分の考えを比べて考えたり発表したりできる子どもも出てきた。

子どもたちの多様な考えを関わらせることに焦点をしばって研修を進めたことで、話し合いの場面での授業者の関わり方について意識をして授業をするようになってきた。しかし、個々に日常の授業では実践したが、全体研修として実践交流する機会が少なかった。

平成19年度「主体的に学び、高め合う子どもの育成

子どもが考えを深めたり広げたりするための授業者の関わり方(算数科)」

前年度の取り組みをさらに深めるため、引き続き同じ主題で研修を進めた。研究授業の事後検討会では授業者の関わり方に重点を置いた話し合いを持ち、さらに全員がミニ授業研究を行ったことで、主題について理解を深められた。

その結果、課題について自分なりの方法で解決しようと努力したり、多様な考え方ができるようになったり、友だちの考えに関わっていこうとしたりする子どもが増えてきた。また、自分たちで分類してまとめたり発展的に考えたりできるようになってきた子どもも出てきた。しかし、知識や技能が定着していない子どもたちや苦手意識が強い子どもたち

が、授業に参加できないままになっているということが課題としてあがってきた。

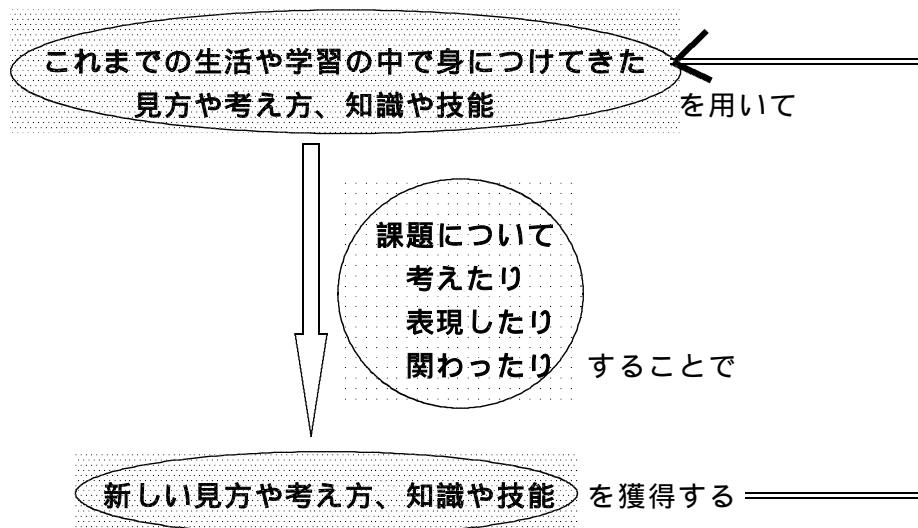
## 2 本年度の研修

本年度は、主題を「主体的に学び、高め合う子どもの育成 - 考える力・表現する力・関わる力を育てる(算数科) - 」とし、研修を進めていくこととした。

特に、昨年度の反省から、力がついてきている子どもがいる反面、知識や技能が定着しておらず、授業の中で自分の考えが持てなかったり友だちの考えを理解できなかったりする子どもたちがおり、その子どもたちにいかに授業に参加させていくか、その中でどのように力をつけさせていくかを考えていきたい。

子どもたちの学力や経験に個人差があるのは当然で、その違いをつなげながら授業を進めていけたら、より豊かな学びになるのではないかと、また、ある程度の知識や技能が定着していないと授業に参加できないではなく、一緒に授業をすることで友だちの考えに関わらせながら力をつけられるのではないかと考える。

考える力・表現する力・関わる力は一朝一夕につくものではなく、新しい知識や技能を獲得していく過程でついていくものである。日々の授業をより大切にする研修を進めていきたい。



### 考える力・表現する力・関わる力とは

授業を、課題をつかみ自分の考えを持つ 全体で話し合う ふり返る・発展的に考え出す の流れで構成し、その中で3つの力を育てる。

#### 考える力

これまでの生活や学習の中で身につけてきた見方や考え方・知識や技能を根拠にして、課題を解決する力

与えられた方法ではなく、自分で工夫しながら、具体物を使ったり図をかいたりなどしながら試行錯誤することが大切

#### 表現する力

自分の考えを言葉・式・図等で表し、筋道立てて説明する力

それぞれの表現をつなげることが大切  
別の表現で表したり、具体例をあげたりすることが大切

### 関わる力

考えと考えを比べ、似ている点や違う点を見つける力

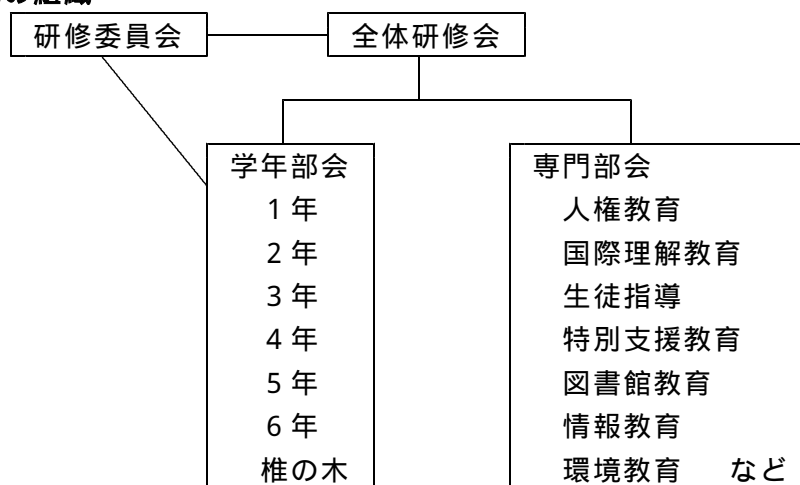
考えのよさを確認したり、自分の考えをふり返ったり、考えを発展させたりすることが大切

### 考える力・表現する力・関わる力を育てるために

3つの力を育てるために、次の5つの手だてをもとに授業を行う。これらは今までにも大切にしてきたことであるが、まだまだ力不足の子に、より視点をあてた授業を考える。

- 1) 多様な考え方や表現ができる課題や課題提示を工夫する  
算数的活動を通して試行錯誤をしながらどの子も考えを持てること  
「考えたい」「知りたい」「やってみたい」と思えること
- 2) 1つの考えを複数の方法で表現させる  
「図でかけるかな」「お話できるかな」「式の意味がわかるかな」などの言葉がけ
- 3) わからない子ども、途中まで考えた子ども、間違えている子どもを、どの場面でも関わらせていくかを予め考えておく  
個々に対応するのではなく、授業の中に取りこんでいくこと
- 4) まとめを子どもたちにさせる  
授業者がまとめるときも、授業の中で出てきた子どもたちの言葉でまとめること  
そのために、子どもたちの考えや言葉をしっかり板書していくこと
- 5) 学習感想を書かせる  
わかったこと、見つけたこと、考えたこと等

### 研究の組織



## 研修計画

月	研究主題に基づく研修	その他の研修
4	・ 研究推進計画の決定	・ 年間計画作成（各専門部・学年）
5	・ 授業研究の具体的な進め方について ・ 年間計画作成（各学年部）	・ 環境デーの取り組みについて ・ 「のびゆく子ども」検討
6	・ 各自、授業研究	・ 特別支援教育学習会 ・ 椎の木公開授業 ・ 子どもの生活を語る会 ・ 人権教育学習会
7	・ 各自、授業研究	・ 学校自己評価について
8	・ 授業分析と教材研究 ・ 研究授業の指導案作成と検討	・ 子どもの生活を語る会 ・ 平和教育について ・ 情報教育学習会 ・ 人権教育学習会
9	・ 研究授業と事後検討	
10	・ 研究授業と事後検討	・ 特別支援教育学習会
11	・ 研究授業と事後検討	・ 人権学習授業研究 ・ 児童・保護者アンケートについて
12	・ 研究授業と事後検討	・ 人権集会について ・ 子どもの生活を語る会
1	・ 研究授業と事後検討	
2	・ 研究のまとめと反省 ・ 来年度研究の方向検討	・ 子どもの生活を語る会 ・ 学校自己評価について
3	・ 研究紀要の作成	

- ・ 随時 学年部会
- 先進校視察と還流
- ミニ授業研究